

小学校における学年運営の実態

一岐阜県内小学校の学年主任へのアンケート調査から一

岐阜大学教職大学院 奥田真司

第1章 調査の目的と方法

第1節 調査の目的

学年組織は、学校の経営組織と指導組織を繋ぐ重要な位置を占めている。学年組織の指導組織としての機能、指導組織としての機能は、それぞれどんな実態があるのだろうか。

ここでは、学年組織の場としての学年会と学年主任のリーダーシップに焦点を当てる。学年会は、学校組織の中でどのような実態をもち何に価値を置いているのか。また、学年主任のリーダー行動は、どのような実態をもち、何に価値を置いて実践されているか。この2点について調査する。

第2節 調査対象・方法

調査は、岐阜県内の小学校を範囲とした。県内の375校、2250人の学年主任の内、調査対象を「3学級以上の学年の主任（573人）」とした。127校573人の学年主任にアンケートを郵送により送付し回収した。回収率は78.9%、452人からの回答を得た。アンケート集計は、マークシート式のアンケート用紙を機械的に読み取る方法¹を採用した。調査は、平成23年11月25日～12月6日の期間に行った。

第3節 調査内容

アンケート項目は、「1 経験年数」「2 性別」「3 専任・兼任の別」「4 学年主任研修の機会の有無」「5 担当学年の平均年齢」「6 担当学年」「7 学年会の運営実態」「8 学年会の機能認識」「9 学年主任のリーダー行動の実態」「10 学年主任の機能認識」とした。

さらに、「7 学年会の運営実態」「8 学年会の機能認識」については、具体的に「①担任の資質向上に関わる内容」「②学校の経営方針や職員会提案の徹底」「③学級経営の標準化、統一化」「④学級経営実態に関する情報交流」「⑤学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」を質問した。

また「9 学年主任のリーダー行動の実態」「10 学年主任の機能認識」に関しても、「①学年教員に対する指導、助言、指示」「②学校経営スタッフの一員として学校運営への参加」「③困っている担任に対してのサポート」「④アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況への実態把握」「⑤学年の行事や活動の立案」「⑥他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整」を質問した。

「7 学年会の運営実態」「8 学年会の機能認識」「9 学年主任のリーダー行動の実態」「10 学年主任の機能認識」の選択肢として、「よくあてはまる」「あてはまる」「あまりあてはまらない」「あてはまらない」を準備した。

第4節 調査形態

アンケートの実施に際して学年の偏りがないように心がけた。「担当学年は？」の回答を確認すると、どの学年の学年主任からも偏りなくアンケートが回収できたことがわかった。低学年がやや多いのは、低学年

では35人定員の少人数学級のために、3学級以上の学年主任がそもそも多いことが理由として考えられる。

表1 担当学年

							実数 (%)	
第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	無回答	計	
77 (18.1)	84 (19.8)	62 (14.6)	62 (14.6)	69 (16.2)	70 (16.5)	1 (0.2)	425 (100.0)	

アンケート結果の分析には、「指数」を用いた。指数は、質問に対する選択肢の内、肯定的評価を「2」「1」、否定的評価を「-1」「-2」として求めた。さらに、「実態-重要度」で差をもとめ、これも分析に用いた。

第2章 アンケート結果と分析

第1節 基本質問「経験年数」「性別」「職務形態」「研修機会」「学年の平均年齢」

1 学年主任の教職経験年数（平成23年3月の時点）

学年主任の経験年数は、25年～29年が最も多く27.4パーセント、20年～34年で70パーセントを占めた。岐阜県の小学校教員の年齢構成は「ミイラ型」と言われ、今後10年の間に大きく教員が入れ替わることが懸念されている（図1）。教職30年を超える学年主任は27.6パーセントで、50代のベテラン学年主任が3分の1近いことも明らかになった。

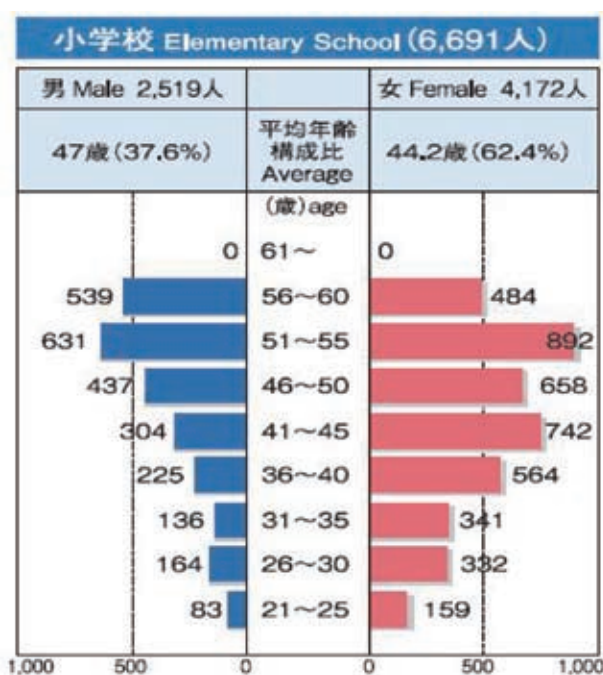


図1 公立学校教員の年齢構成（平成22年5月1日現在）

表2 学年主任の教職経験年数（平成23年3月の時点）

							実数（%）	
～14年	15～19年	20～24年	25～29年	30～34年	35年～	無回答	計	
23 (5.49)	54 (12.7)	104 (24.5)	116 (27.4)	96 (22.6)	29 (6.8)	2 (0.5)	424 (100.0)	

2 学年主任の性別

男性の学年主任が21.6パーセント、女性の学年主任が77.6パーセントであった。小学校の教員全体の男女の割合37.6パーセントと62.6パーセント（平成22年5月1日「岐阜県教育の姿」）と比較しても、女性が多い。これは、校長、教頭、教務主任、生徒指導主事などに男性が多いためと考えられる。岐阜県の小学校の学年主任は8割近くが女性だということになる。

表3 学年主任の性別

				実数（%）	
男性	女性	無回答	計		
92 (21.6)	330 (77.6)	3 (0.7)	425 (100.0)		

3 学年主任の兼任・専任

学年主任は、98.6パーセントが学級担任との兼任であった。ほとんどの学年主任が他の担任と同様に学級担任をしながら学年運営を行っていることが分かる。自由記述欄への記入によると、学年主任の中には、研究推進委員長や、指導部長なども兼任している事例も見られた。

表4 学年主任の兼任・専任

				実数（%）	
兼任	専任	無回答	計		
419 (98.6)	5 (1.2)	1 (0.2)	425 (100.0)		

4 学年主任研修の機会の有無

この質問は、複数回答を可とした。校長や教頭から指導を受けたことがある人よりも、研修機会がないと回答する人の方が多い。半数近くの学年主任は研修する機会をもたないまま学級担任や学年主任の職務についている実態がある。

自由回答記述欄への記入や、返送封筒に同封された手紙などによると、20年ほど前には、教育センターの研修で、新任学年主任研修の講座が設定されていたこと、市の教育委員会単位で、学年主任研修が行われていた事例があることが分かった。いずれも現在は行われていない。学校経営のスタッフとしても、教育指導組織の要としても重要な仕事を担う学年主任が何の研修も受けていないことに驚かされる。

表5 学年主任の研修機会（複数回答可）

						実数	
校長・教頭から指導	先輩から、指導	教育委員会や大学の研修	研修を受けていない	無回答	アンケート記入者数		
147	96	41	209	1	424		

5 担当学年の教員の平均年齢

担当学年の教員の平均年齢は、30代40代が最も多く合わせて91.3パーセントである。これは、平均年齢を質問しているので、予想できた結果ではある。しかし、少数ながら教員の平均年齢が20代、50代の学年がある事実が明らかになった。特に、学年教員の平均年齢は、今後ますます低下していくと予想されている。

表6 担当学年の教員の平均年齢

					実数 (%)
20代	30代	40代	50代	無回答	計
7	198	189	25	5	424
(1.7)	(46.7)	(44.6)	(5.9)	(1.2)	(100.0)

第2節 学年会の運営と学年主任のリーダー行動の実施度・認識度

学年会の活動実態を調査した。具体的な質問項目は、「担任の資質・能力の向上に関わる内容」「学校の経営方針や職員会提案の徹底」「学級経営の標準化、統一化」「学級経営実態に関する情報交流」「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」とした。

質問は、「学年会の活動内容についてお尋ねします。以下の項目について、どの程度実施していますか。該当するところにマークしてください。」とし、実態として「頻繁に実施している」「実施している」「ときどき実施している」「あまり実施しない」を選択肢として回答を得た。4段階の回答をそれぞれ「+2」「+1」「-1」「-2」としその平均を指数とした。以下、「⑧学年会の価値・機能の認識」「⑨学年主任のリーダー行動」「⑩学年主任の機能、価値認識」についても同様に指数を求めた。

1 学年運営の実施度

学年運営の実施度として最も高い指数を示したものは、「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」で、指数1.79であった。

最も低かったものは「担任の資質・能力の向上に関わる内容」、指数-0.17で最低であった。この項目で経験年数によるクロス集計を行った。学年主任の教員経験年数が少ないほど「担任の資質・能力の向上」の指数が小さかった。教員経験年数の少ない学年主任が増えてくることが予想されているので、今後この指数はさらに下がることも推察できる。また、性別による学年運営実態のクロス集計を行った。男性よりも女性の方が「担任の資質・能力の向上」が高かった。他の項目でもおおむね女性の学年主任の指数が高い傾向があるが、この項目では、際立って大きい差となった。

次いで「学校の経営方針や職員会提案の徹底」が0.96と低い指数を示した。学年会では、行事・活動の計画、打ち合わせが中心となり、学校経営方針の実現に向けた内容、教員の研修・力量向上に関わる内容の実施度が低い。学年会の活動実態は、経営組織としての活動よりも、指導組織として学年独自の行事・活動に関わる活動がよく実施されている。

表7 学年運営の実施度

					実数・指数
	頻繁に実施する	実施する	あまり実施しない	ほとんど実施しない	指数
担任の資質・能力の向上に関わる内容	46	145	147	81	-0.17
学校の経営方針や職員会提案の徹底	129	225	62	7	0.96
学級経営の標準化、統一化	152	218	45	4	1.11
学級経営実態に関する情報交流	265	138	17	1	1.53
学年の行事・活動の計画、打ち合わせ	341	80	1	0	1.79

表8 経験年数による学年会運営実態

	指数		
	20年未満	20年以上30年未満	30年以上
学年運営実態 担任の資質・能力の向上	-0.36	-0.15	-0.08

表9 性別による学年運営実態

	指数	
	男性	女性
学年運営実態 担任の資質・能力の向上	-0.38	-0.11

2 学年会機能の認識度

学年主任が学年会の価値・機能をどう認識しているかを調べるために、「学年運営の実施度」と同じ質問をした。学年主任として、学年会のどの活動を重要視しているか、学年会の価値・機能の認識を明らかにしようとした。質問項目は実態と同様の、「担任の資質・能力の向上に関わる内容」「学校の経営方針や職員会提案の徹底」「学級経営の標準化、統一化」「学級経営実態に関する情報交流」「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」である。

学年主任の認識度が最も高いのは、「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」で、1.92の高い指数を示している。「学級経営実態に関する情報交流」も、1.88と高い。具体的な内容は、教科指導の進捗や子どもの様子などであろう。反対に、「担任の資質・能力の向上に関わる内容」は1.11と低く、他と比較して重要とは見ていないことが分かった。

表10 学年主任による学年会機能の認識度

	実数・指数				
	大変重要である	重要である	あまり重要でない	重要でない	指数
担任の資質・能力の向上に関わる内容	132	250	35	3	1.11
学級経営の標準化、統一化	242	170	11	1	1.51
学校の経営方針や職員会提案の徹底	257	160	6	0	1.57
学級経営実態に関する情報交流	378	44	0	0	1.88
学年の行事・活動の計画、打ち合わせ	392	32	0	0	1.92

3 学年会の実施度と認識度の比較

学年会の実施度と認識度を比較して分析する。これは、認識度指数－実施度指数でその差を求めて行った。認識度指数と実施度指数の差からわかることは、学年主任の学年運営の価値判断と実態の開きの大きさである。重要だと思っはいるがなかなか実現できていない、いわば理想と現実のギャップがどの程度か、問題の大きさとして見えるはずである。学年会の実態・重要度を比較し、差の少ない順に見てみると、「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ:0.13」「学級経営実態に関する情報交流:0.35」「学級経営の標準化、統一化:0.40」「学校の経営方針や職員会提案の徹底:0.61」「担任の資質・能力の向上に関わる内容:1.28」となった。

「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」が思い通りに実施できている一方で、「担任の資質・能力の向上に関わる内容」「学校の経営方針や職員会提案の徹底」は、差が大きいわけではないが、実施度だけではなく認識度もまた低い傾向がある。

表11 学年会の実施度・認識度比較

	実施度	認識度	指数・差
担任の資質・能力の向上に関わる内容	-0.17	1.11	1.28
学校の経営方針や職員会提案の徹底	0.96	1.57	0.61
学級経営の標準化、統一化	1.11	1.51	0.40
学級経営実態に関する情報交流	1.53	1.88	0.35
学年の行事・活動の計画、打ち合わせ	1.79	1.92	0.13

4 学年主任のリーダー行動の実施度

学年主任のリーダー行動実態を調査した。質問項目は、「学年の教員に対する指導、助言、指示」「学校経営スタッフの一員として学校運営への参加」「困っている担任に対してのサポート」「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握」「学年の行事や活動の立案」「他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整」とした。

これまでの質問に比べて、「学年主任におけるリーダー行動の実態」の指数は、全体に低い傾向があり、学年主任としての行動を十分に行えていない実態が浮かび上がった。「学年の行事や活動の立案」の指標が1.45だった他は、どれも低い値となった。

低い順に「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握 (0.17)」「学校経営スタッフの一員として学校運営への参加 (0.39)」「学年の教員に対する指導、助言、指示 (0.62)」「困っている担任に対してのサポート (0.84)」となった。

ここで、性別によるクロス集計をおこなった。ほとんどの項目で、女性の学年主任の方が男性より高い指数を示したが、ただ「学校経営スタッフの一員として学校運営への参加 (0.39)」だけは、男性より低い数値を示した。

学年主任が、最も実施しているリーダー行動は、「学年の行事や活動の立案」である。これは、学年の活動について学年主任が原案を提案することである。しかし、前述した「学年会の実態」のなかで、「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」が1.79だったことから考えると、「学年の行事や活動の立案」は、「学年主任のリーダー行動」としてではなく、「学年会の活動」として行われている傾向があるといえる。

表12 学年主任におけるリーダー行動の実施度

	頻繁に実施する	実施する	あまり実施しない	ほとんど実施しない	指数
アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握	46	197	136	40	0.17
学校経営スタッフの一員として学校運営への参加	47	231	117	22	0.39
学年の教員に対する指導、助言、指示	97	201	109	12	0.62
困っている担任に対してのサポート	104	234	76	5	0.84
他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整	112	240	66	2	0.93
学年の行事や活動の立案	217	193	8	1	1.45

表13 性別による学年主任におけるリーダー行動の実施度

	男性	女性
他学年主任、教務、生指らとの連絡調整	0.79	0.98
学年行事・活動の立案	1.43	1.50

アンケートやテスト観察などによる学級経営状況把握	-0.19	0.27
困っている担任へのサポート	0.68	0.90
学校運営スタッフとしての参加	0.48	0.37
学年の教員に対する指導・助言・指示	0.47	0.67

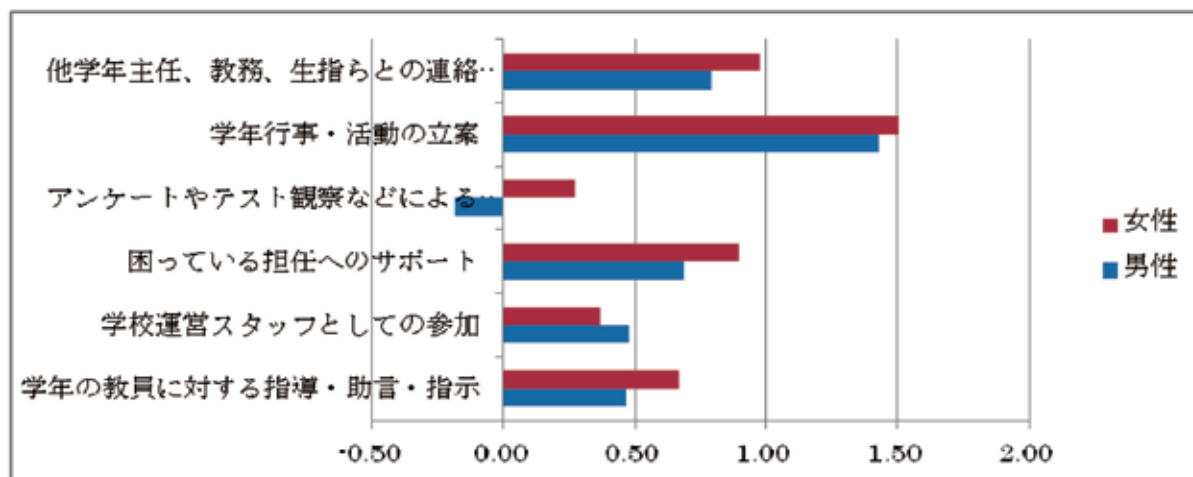


図2 性別による学年主任におけるリーダー行動の実施度比較

5 学年主任のリーダー機能の認識度

学年主任が「学年主任という立場」の価値・機能をどう認識しているかを調べるために、「学年主任におけるリーダー行動の実施度」と同じ質問をした。質問項目は、「学年の教員に対する指導、助言、指示」「学校経営スタッフの一員として学校運営への参加」「困っている担任に対してのサポート」「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握」「学年の行事や活動の立案」「他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整」である。

学年主任が認識するリーダー行動の重要度で、最も高かったのは、「3. 困っている担任に対してのサポート (1.8)」だった。学年の中に不安を抱える教員がいて、サポートが必要であることを認識している学年主任が多い状況がうかがえる。最も低いものは、「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握 (1.21)」である。学年主任は、学校評価の外部アンケートや、学習状況の調査テストなどを分析し学年の運営に役立てることをあまり重要に考えていないことを示す結果と言える。

表14 学年主任におけるリーダー行動機能の認識度

	実数・指数				指数
	大変重要である	重要である	あまり重要でない	重要でない	
アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握	164	222	35	1	1.21
学校経営スタッフの一員として学校運営への参加	174	235	11	1	1.31
学年の教員に対する指導、助言、指示	233	179	8	0	1.51
他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整	260	156	5	0	1.58
学年の行事や活動の立案	311	107	3	0	1.71
困っている担任に対してのサポート	344	76	1	0	1.8

6 学年主任のリーダー行動の実態・重要度の比較

学年主任のリーダー行動の実態と重要度の差が小さい順に見てみると、「学年の行事や活動の立案」「他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整」「学年の教員に対する指導、助言、指示」「学校経営スタッ

フの一員として学校運営への参加」「困っている担任に対してのサポート」「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握」となった。

実態と重要度の間に大きな差があり、問題となるのは、学校経営スタッフの一員として学校運営への参加」「困っている担任に対してのサポート」「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握」である。

表15 学年主任のリーダー行動の実態・重要度比較

	実態	重要度	指数・差
アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握	0.17	1.21	1.04
学校経営スタッフの一員として学校運営への参加	0.39	1.31	0.96
困っている担任に対してのサポート	0.84	1.8	0.96
学年の教員に対する指導、助言、指示	0.62	1.51	0.89
他学年の主任や、教務、生徒指導主事らとの連絡調整	0.93	1.58	0.65
学年の行事や活動の立案	1.45	1.71	0.26

第3節 学年主任による学年運営の傾向

学年会の運営において明らかになった傾向は、3つある。1つ目に、学年会は、「学年の行事・活動の計画、打ち合わせ」を重視するという傾向があるということである。2つ目に、学年会は、「学級経営実態に関する情報交流」を重視するという傾向があるということである。3つ目に、学年会は、「担任の資質・能力の向上に関わる内容」を重視しないという傾向があることである。

学年主任による学年運営の傾向は、4つあげることができる。1つ目に、学年主任は、「学年の行事や活動の立案」を最も頻繁に実施するという傾向である。2つ目に、学年主任は、「困っている教員に対してのサポート」を最も高く認識するという傾向である。3つ目に、学年主任は、「学校経営スタッフの一員として学校経営への参加」を重視しないという傾向である。4つ目に、学年主任は、「アンケートやテスト、観察などによる学級経営状況の実態把握」を重視しないという傾向である。

学年主任は、指導組織としての機能はともかく、経営組織としての役割が十分に認識できていないことが明らかになった。さらに、近年、学校改善ツールとして導入された「学校評価アンケート」や国や県や市が行っている「学力状況調査」などを使った実態把握に関しても、学年主任の意識は低いという実態があった。このように、学年組織の、経営組織と指導組織を繋ぐ機能には、課題があることが明らかになった。

表16 学年会、学年主任のリーダー行動の実施度と認識度

指数

	学年会					学年主任のリーダー行動					
	学年の行事・活動の計画、打ち合わせ	学校の経営方針や職員会提案の徹底	学級経営の標準化・統一化	学級経営実態に関する情報交流	担任の資質・能力の向上	学校経営スタッフの一員として学校運営への参加	他学年の主任、教務、生徒指導主事らとの連絡調整	学年の行事や活動の立案	指導組織 学年の教員に対する指導、助言、指示	アンケートやテストなどによる学級経営状況の実態把握	困っている担任へのサポート
実施度	1.79	0.96	1.10	1.53	-0.17	0.39	0.93	1.45	0.62	0.17	0.84
認識度	1.92	1.57	1.51	1.88	1.11	1.34	1.58	1.71	1.52	1.21	1.80

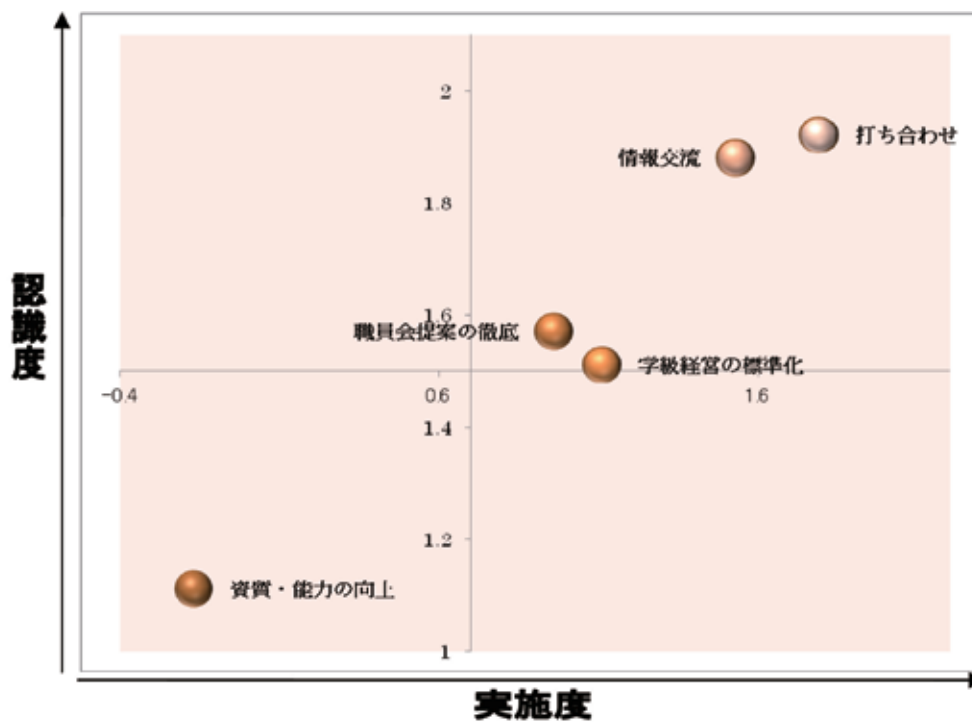


図3 学年運営要素の実施度・認識度の相関イメージ

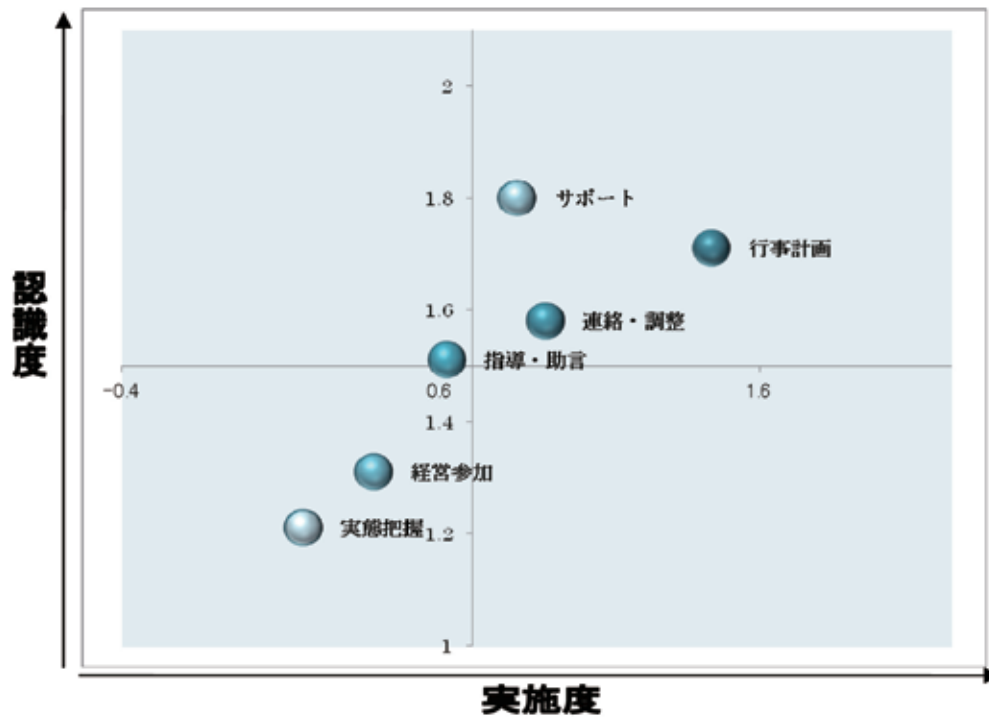


図4 学年主任リーダー行動の実施度・認識度の相関イメージ

引用・参考文献

- ¹ SQS (shared questionnaire system) 千葉商科大学 久保裕也 開発